

学位に関する統計

— 明治二〇年および三二年学位令 —

梶 田 明 宏

目次

解説

統計・グラフ

掲載図表一覧

表 1 明治二〇年学位令による学位授与者数

表 2 明治三二年学位令による学位授与者数

a 東京帝国大学、b 京都帝国大学、c 九州帝国大学、d 東北帝国大学、e 北海道帝国大学、f 博士会、g 総計

図 1 学位授与者数帝国大学別比率

a 総計、b 法学博士、c 医学博士、d 薬学博士、e 工学博士、f 文学博士、g 理学博士、h 農学博士、i 林学博士、j 獣医学博士

図 2 各帝国大学学位授与者数種類別比率

a 東京帝国大学、b 京都帝国大学、c 九州帝国大学、d 東北帝国大学、e 北海道帝国大学、f 博士会

図 3 各帝国大学学位授与者数授与別比率

a 東京帝国大学、b 京都帝国大学、c 九州帝国大学、d 東北帝国大学、e 北海道帝国大学

図 4 学位授与者数累積度数グラフ（東京帝国大学）

学位に関する統計

図 5 学位授与者数累積度数グラフ（京都帝国大学）

a 法学博士、b 医学博士、c 工学博士、d 文学博士、e 理学博士
a 法学博士、b 医学博士、c 工学博士、d 文学博士、e 理学博士

解 説

一

以下に掲げる統計は、明治二〇年五月二〇日勅令第一三三号、及びそれを全面改正した明治三二年勅令第三四四号の学位令による、博士学位授与者数に関するものである。この二つの学位令では、後の学位令で帝国大学以外の大学を含む各大学に学位授与権が与えられたのに対し、学位は文部大臣によって授けられるものであったが、博士会を除いては各帝国大学が、授与の審議推薦を行なっていた。博士学位授与者の氏名・授与年月日についての資料は、文部省専門事務局の『学位録』、及び門田重雄編『論文総覧日本の博士研究』（昭和二年、啓明社）がある。しかし、この二つの学位令による授与者については、後者は授与種類（総長推薦、論文提出といった区別）・授与日についての間違いが少なくなく、また前者は授与種類について全く書かれていない。そして両者とも、帝国大学が関与するものについて、いずれの帝国大学によるものか全く記述がない。そのため、学位授与にかかわった帝国大学、及び授与種類も解るよ

う、官報での掲載を基本に、各年ごとの授与者数をひろったものがこの統計である。

次に、それぞれの学位令の特色、及び官報での掲載形態などについて説明しよう。

明治二〇年の学位令では、博士と大博士の二等が規定されたが、実際に大博士を授与されたものはいない。博士は法・医・工・文・理の五種類があり、「大学院ニ入り定規ノ試験ヲ経タル者アルトキハ帝国大学総長ノ具申ニ依リ」(細則第二条)、または「文部大臣ニ於テ大学院ニ入り定規ノ試験ヲ経タル者ト同等以上ノ学力アリト思慮スル者アルトキハ帝国大学評議會ノ議ニ付シ評議官総数三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テ」(細則第三条)の二つの規定があった。また学位を文部大臣に申請することができ(細則第四条)、その場合細則第三条の手続きがとられた。これに依って実際に行なわれた授与の手続きを見ると、明治二五年に医学博士の学位を取った猪子吉人の場合、まず本人の出願により文部大臣大木喬任が評議會の議に付す旨帝国大学総長加藤弘之に通達を行なう。総長は審議を医科大学長大沢賢二に指示、医科大学長は薬物学教授高橋順太郎に諮問の上医科大学教授会の議に付し、学位授与が適当と認定された旨を総長に具申、さらに総長はそれを評議會の議に付し、可決された上で文部大臣に具申して、猪子は文部大臣より学位を授与された(東京大学所蔵『秘書附緊要書類』)。各分科大学の審査結果が評議會での議決に重要な意味を持っていたのは言うまでもなく、総長が文部大臣に具申する際、当該分科大学長の復申書を添える場合もあった。明治三一年学位令に規定された論文提出によるものも、評議會の議決という手続を除けば、これと実質的には変わらないと言つてよい。また、大学院卒業の例を見ると、明治二七年に理学博士となった長岡半太郎の場合、総長が理科大学教授五名を試験委員に任命、提出された論文を審査させ、その試験結果を添えて文部大臣に具申している(同前)。

官報には授与日の翌日か翌々日には掲載されている。掲載の体裁は必ずしも一定していなかったが、学位記の文面をそのまま載せるといふ原則はあったようである。しかし同日に複数名の授与があった場合、省略されることが多かつ

た。また授与の区別は学位記の冒頭に説明がなされていたが、そういった説明が全くない場合もあり、統計作成に当たっては『秘書附緊要書類』などで確認した。

明治三一年の学位令では、法・医・薬・工・文・理・農・林・獣医の九種の博士が規定され、大博士は廃された。授与の種類は、帝国大学に係わるものとしては、当該帝国大学総長の推薦、大学院卒業、論文提出の三種があり、他に博士会による推薦があった。この学位令の改正は、専攻学科の増加と京都帝国大学の創設に対応するものである。改正に当たっての文部大臣請議(公文類聚)では、京都帝国大学にも当然評議會があることから、評議會の議に付すという規定が実行困難になったことを、博士会推薦の規定を設ける理由としている。しかし、先に述べたように、評議會推薦の場合でも、旧学位令細則第四条に該当する部分については、むしろ論文提出の規定に相当していた。論文提出の場合、学位授与を希望するものは、自著論文に履歴書を添え、審査を受けるべき大学を指定して文部大臣に申請する。文部大臣は帝国大学総長に当該分科大学教授会の議に付すべき旨を通達し、総長は分科大学教授会の議に付しその結果を文部大臣に具申するという点で、評議會の議決を経ないこと以外、先述の猪子の場合とほとんど変わらない。博士会における学位授与に関する議事や、授与基準などについては明らかではないが、評議會の役割は全く博士会に受け継がれたのではなく、学力認定については論文提出へ、榮譽的な学位授与については博士会推薦へと分けられたと見ることができよう。

大学院卒業の場合は、学位を希望するものは論文・履歴書・研究状況を添えて総長に申請する。この際、当該分科大学長も具申書を添える。総長は教授会の議に付して審査させ、学位の授与の資格ありとの復申をうけた後、文部大臣に具申した。

総長推薦は帝国大学の教授に学位を与える規定であるが、授与者がどのよう

に決定されたかはわからない。明治三一—大正九年までの間に東京帝国大学教授の職に在ったものはほとんど博士となっており、他の規定で学位を授与された教授も見当たらず、学位を持たないで教授となった者はこの規定で学位を授

与されることになっていたようである。実際の授与状況を見ると、明治三二年から数年間で在職中の教授がほとんど授与され、退官際に授与された例もある。その後は、教授就任一年後位には大体授与が行なわれた。もっとも、明治四〇年代以降には数年後の例も見られるが、どのような事情によるかはわからない。また、京都帝国大学でも事情はほぼ似たようなものであったらしい。このように教授に学位が与えられたのは、その構成する教授会が学位授与の当否を審議するのであり、その権威という面での配慮もあつたのであろう。それだけにその学位は学力を認定したものであるというより、博士会推薦と同様、学問的功績に対する荣誉の称号という性格が強いとみるべきである。明治三七年に法科大学長穂積八束が法学部教授会の議決として総長に出した学位令改正についての上申書で、大学院卒業・論文提出ともに帝国大学分科大学教授会で「学力」を認定したものに学位を授与することとし、「従来ノ博士会ヲ廢シ尙ホ帝国大学総長ニ於テ当該分科大学教授ヲ推薦シテ学位ヲ授クルトモ之ヲ廢止ス」(「秘書附要書類」)と主張されたことは、総長推薦・博士会推薦の学位は「学力」認定の学位とは一線が画されていたことを示すものであろう。

官報での掲載形態は基本的には前学位令と同様であるが、博士会推薦を除き省略されることなく一人一人の学位記が書かれている。また、大学院卒業、論文提出については提出論文の要旨が必ず付された。これはかなり長文にわたるものも多く、そのため同日授与の分が数日から一週間程度にわたることが多くなる。そのこともあつてか掲載日も、大正初めには授与日の数週間後、大正八年以降では数箇月から半年以後になつてゐる。大正九年に新学位令が出されて以後も、新学位令分と並行して掲載は続けられたが、大正一二年九月の関東大震災以後は全く掲載されなくなった。統計では、掲載されていない分については、『学士会月報』及び文部省の調査で補つた。

二

次に統計・グラフについての説明をする。

表1 明治二〇年学位令による学位授与者数

学位に関する統計

表2 明治三一年学位令による学位授与者数

各帝国大学及び博士会別に集計した。各大学とも学位令全文改正(大正九年)直後の大正九一〇年がピークで、ついで授与の最初の年が比較的多いことが特徴である。また九州帝国大学が当初よりある程度の論文博士を出しているのは、創設にあつて京都帝国大学福岡医科大学をそのまま引き継いだからである。同様に北海道帝国大学は、東北帝国大学農科大学を創設時に引き継いでいることに注意されたい。また、博士会には一部東京帝国大学評議会推薦のものが含まれている。これは、明治三一年学位令が実施されたときには新設の薬・農・林・獣には当然博士会を構成すべき当該博士は存在しないわけで、博士会規則第十条「同種ノ博士七名ニ充タサル間当該博士会ノ職務ハ東京帝国大学評議会ニ於テ之ヲ行フ」によるものである。

図1 学位授与者数帝国大学別比率

総数及び各種類の博士について、各帝国大学・博士会の比率をグラフにしたもの。全体的には東京帝国大学が全体の半数近くを占めている。法・薬・工・農・獣では博士会の比率が高く、逆に医・理では博士会はない。

図2 各帝国大学学位授与者数種類別比率

各帝国大学及び博士会について、それぞれ博士の種類別の比率をグラフにしたもの。東京・京都・九州で医、東北で理、北海道で農の比率が高いのが特徴となつてゐる。各帝国大学の整備状況の一端を示すものとして興味深い。

図3 各帝国大学学位授与者数授与別比率

各帝国大学別の授与種類(総長推薦・論文提出・大学院卒業)の比率をグラフにしたもの。東京帝国大学以外総長推薦の比率が高く、特に九州・東北・北海道と、創立が遅い帝国大学ほど高くなつてゐる。

図4 学位授与者累積度数グラフ(東京帝国大学)

図5 学位授与者累積度数グラフ(京都帝国大学)

東京・京都両帝国大学の授与状況の変化を見るため、法・医・工・文・理の五種に就て、授与種類の変化もわかるよう五年ごとの累積度数をとりグラフにした。図4については明治二〇年学位令による評議会推薦・大学院卒業を含めた。京都帝国大学において総長推薦の比率が高いことは図3でも明らかであったが、それが医学部以外で顕著であることがわかる。また共通の傾向として、明治期には総長推薦が比較的多く、大正期後半に論文提出が急激に増えていることが挙げられる。

統計・グラフ

表1 明治20年学位令による学位授与者数

		明治											計		
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
法 学 博 士	評 院	10			8		1							19	19
医 学 博 士	評 院	10			20	2			3			1	1	37	38
工 学 博 士	評 院	10			21									31	31
文 学 博 士	評 院	10			4							1		15	15
理 学 博 士	評 院	10			16			2	2					30	36
							1		4				1	6	
計	評 院	50			69	2	1	2	5	1	1	1		132	139
							1	1	4				1	7	

(注) 評：帝国大学評議会推薦
院：大学院卒業

2-b 京都帝国大学

	明治												大正												昭和				計														
	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		2	3	4	7										
法学博士	10												2												3				2				1				36						
	10												2												3				1				2				1				37		
医学博士	1												2												1				1				1				15						
	1												2												1				1				1				260						
工学博士	5												3												1				1				1				31						
	5												3												1				1				1				15						
文学博士	計												2												1				1				1				21						
	計												2												1				1				1				12						
理学博士	1												2												1				2				1				9						
	1												2												1				2				1				11						
計	6												1												1				1				1				112						
	6												1												1				1				1				299						
計												6												1				1				1				460							

2-c 九州帝国大学

		明治 44	45	大正 2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
医学博士	総論院		1 1	3	1 3	3	4	1 6	3	6	30 1		3 59 1
	計		2	3	4	3	4	7	3	6	31		63
工学博士	総論院	7	3			2	1	4 1	2	3		1	22 2 0
	計	7	3			2	1	5	2	3		1	24
理学博士	総論院						1			2			3 0 0
	計						1			2			3
計	総論院	7	4 1	3	1 3	2 3	2 4	5 7	2 3	5 6	30 1	1	28 61 1
	計	7	5	3	4	5	6	12	5	11	31	1	90

2-d 東北帝国大学

		明治 44	45	大正 2	3	4	5	6	7	8	9	計	
医学博士	総論院						1			3 1	3	4 4 0	
	計						1			4	3	8	
工学博士	総論院									2	1	2 1 0	
	計									2	1	3	
理学博士	総論院		3		1	1		2	1	1	5	5	8 14 0
	計		3		1	1		2	2	1	6	6	22
農学博士	総論院	2			2	1 2			2				5 4 0
	計	2			2	3		2					9
林学博士	総論院								1				1 0 0
	計								1				1
計	総論院	2	3		3	2 2	1 2	2 3	1	6 6	1 9		20 23 0
	計	2	3		3	4	3	5	1	12	10		43

2-e 北海道帝国大学

		大正				計
		8	9	10	11	
法 学 博 士	総論院	1				1
	計	1				1
農 学 博 士	総論院	5	5		1	5
	計	11	6		1	18
林 学 博 士	総論院	1				1
	計	1				1
獣 医 学 博 士	総論院	1				1
	計	2				2
計	総論院	8	5		1	8
	計	15	6		1	22

2-1 博士会

	明治										大正										昭和				計						
	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	15	2	3
法学博士	9		3		4		6		12	7	6	15				2		13		11	11	11									110
医学博士																															0
薬学博士	1*								2*											7			1							2	15
工学博士	31		15																				87							2	185
文学博士	6		2	8			1																6			5				3	40
理学博士	5																													9	5
農学博士	7*																													30	37
林学博士	2*																													4	7
獣医学博士	3*																			1										6	13
計	64	2	26		7		7		8		20	7	12	15	6	3	5	90	13	11	103	20								412	

*……博士会規則第十条「同種ノ博士七名ニ充タル間当該博士会ノ職務ハ東京帝国大学評議會ニ於テ之ヲ行フ」により、東京帝国大学評議會に推薦されたものを含む。

2-2 総計

博士	明治										大正										昭和				計								
	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	15	2	3	4	5
法学	14	2	15	2	7	7	8	4	19	12	7	17	1	2	4	4	2	15	7	11	19	12	1	8	1	2					203		
医学	10	10	11	11	8	14	17	18	19	17	20	13	27	28	37	48	27	57	46	51	31	66	144	75	1						806		
薬学	4			1	2			1	7	1	4	2	1	1	3	2	2	1	1		1		2							36			
工学	47		20	4	7	2	3	3	9	2	2	13	8	10	5	91	2	9	7	73	26	5	3	2		1				356			
文学	14	3	9	10	5	1	6	1	4	1	11	4	6	5	6	5	3	2	1	5	12	12	24	14	8	3	2	1	1	1	182		
理学	7	3	2	5	3	3	2	3	4	3	4	7	10	6	10	5	5	20	7	8	15	13		1					1	146			
農学	10	1	1	1	1	1																								114			
林学	5	1																												39			
獣医学	7																													26			
計	118	20	58	36	34	27	40	33	68	39	49	45	61	50	78	72	136	97	80	84	221	153	179	102	12	7	3	2	1	1	1	1,908	

图 1 学位授与者数帝国大学別比率

凡例

東京……………東京帝国大学
 京都……………京都帝国大学
 九州……………九州帝国大学
 東北……………東北帝国大学
 北海道……………北海道帝国大学

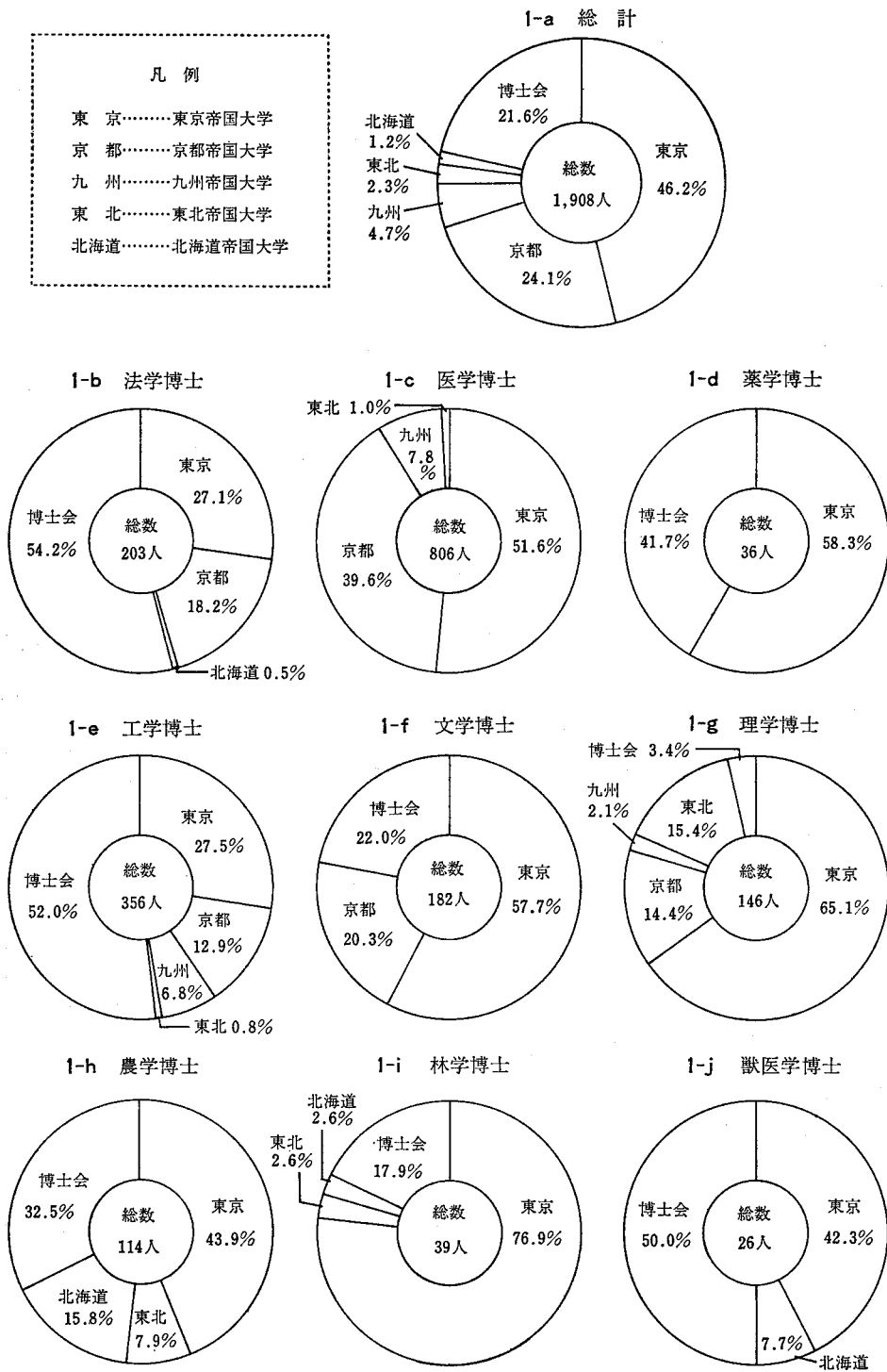


図 2 各帝国大学学位授与者数種類別比率

凡 例			
法	…法学博士	理	…理学博士
医	…医学博士	農	…農学博士
薬	…薬学博士	林	…林学博士
工	…工学博士	獣	…獣医学博士
文	…文学博士		

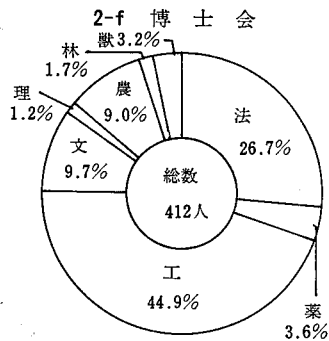
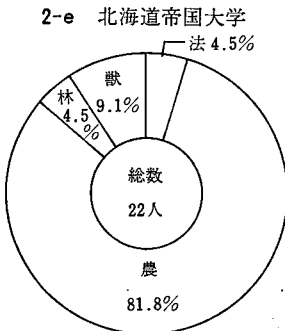
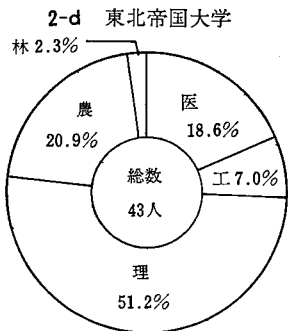
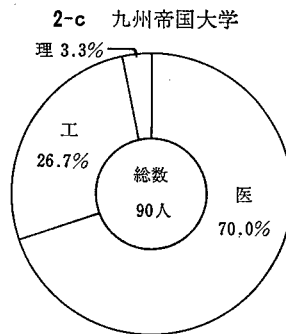
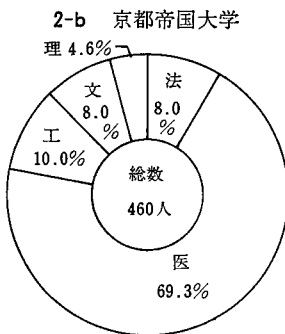
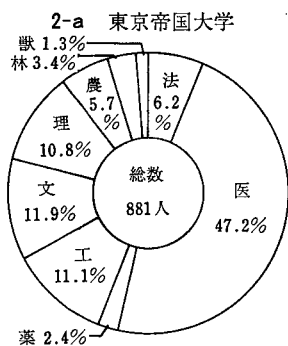


図 3 各帝国大学学位授与者数授与別比率

院…総長推薦，論…論文提出，院…大学院卒業

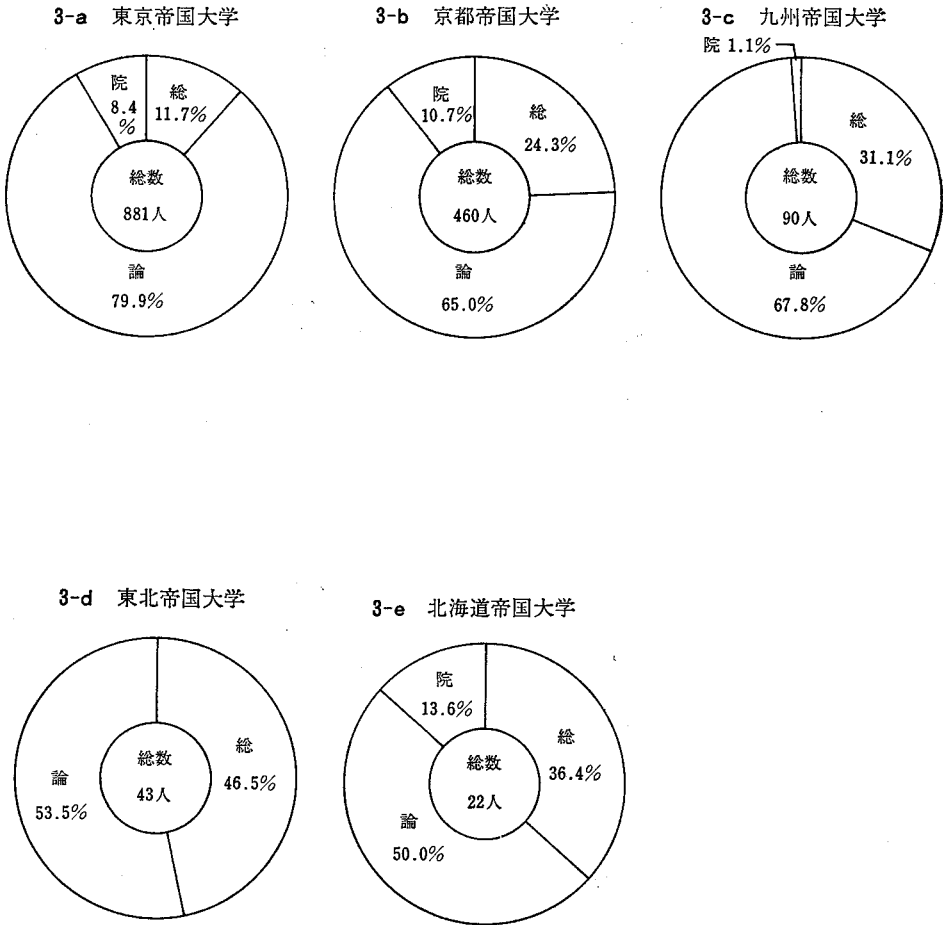




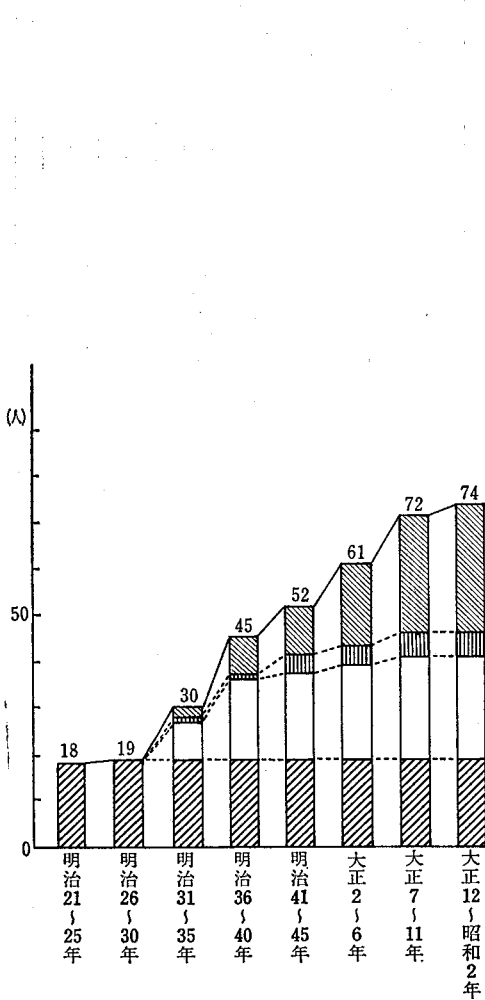


図 4 学位授与者累積度数グラフ (東京帝国大学)

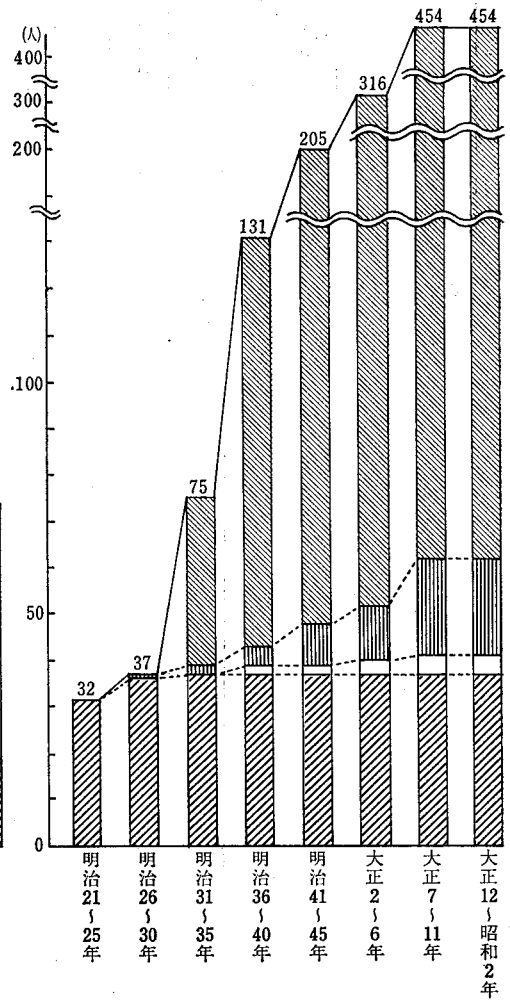
学位に関する統計

- 凡 例
-  評議会推薦
 -  総長推薦
 -  大学院卒業
 -  論文提出

4-a 法学博士



4-b 医学博士



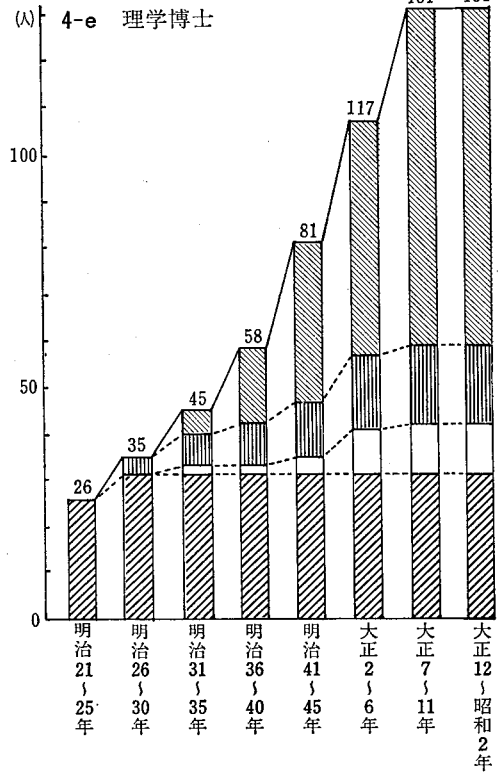
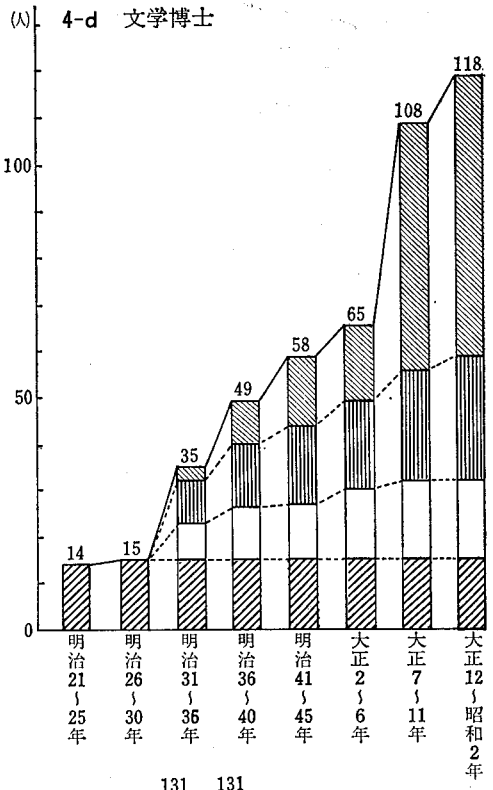
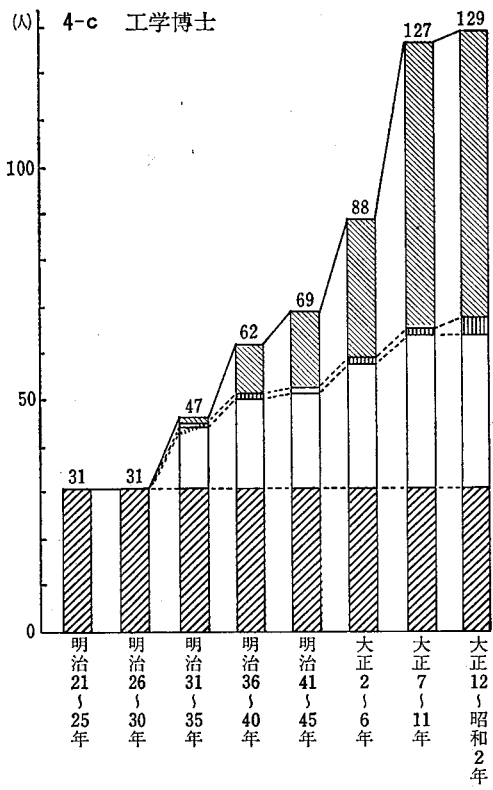
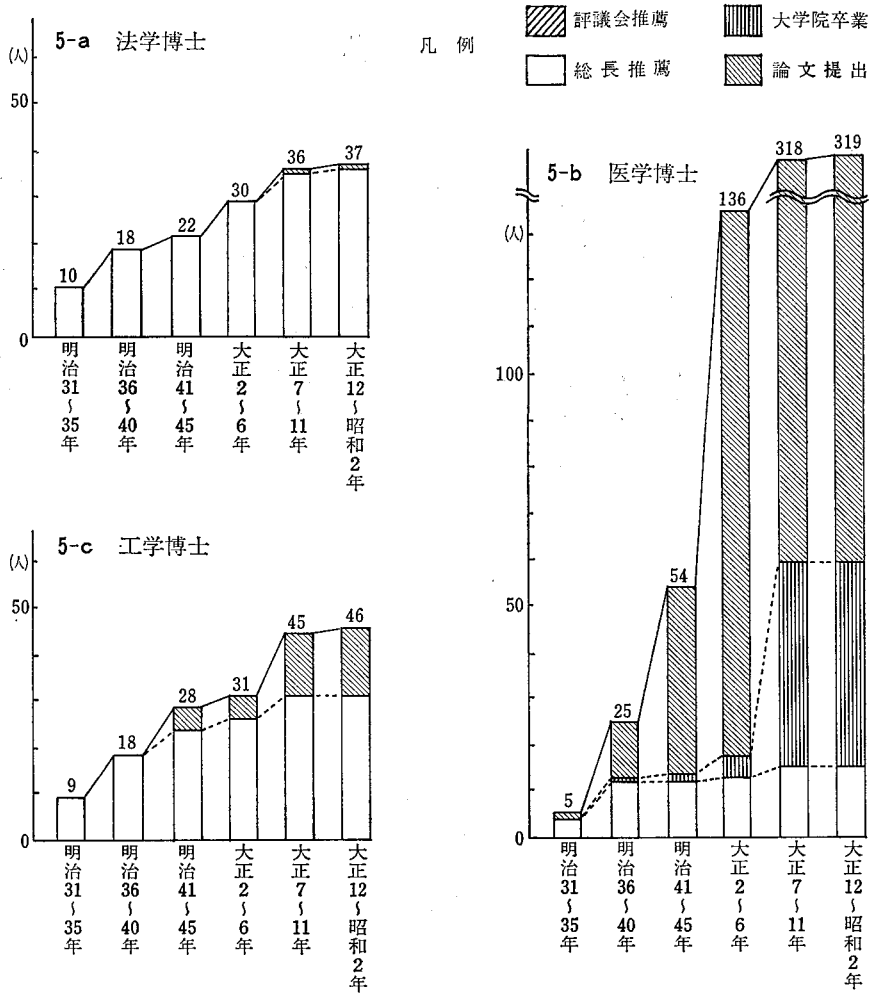


図 5 学位授与者累積度数グラフ (京都帝国大学)



(かじた あきひろ 東京大学百年史編集室)

